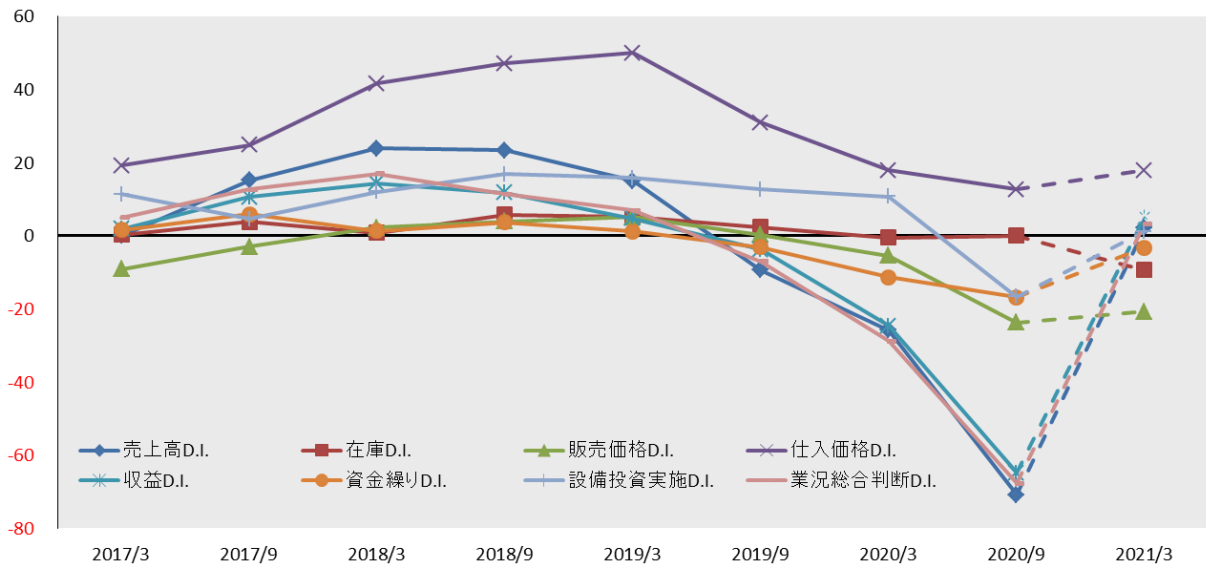


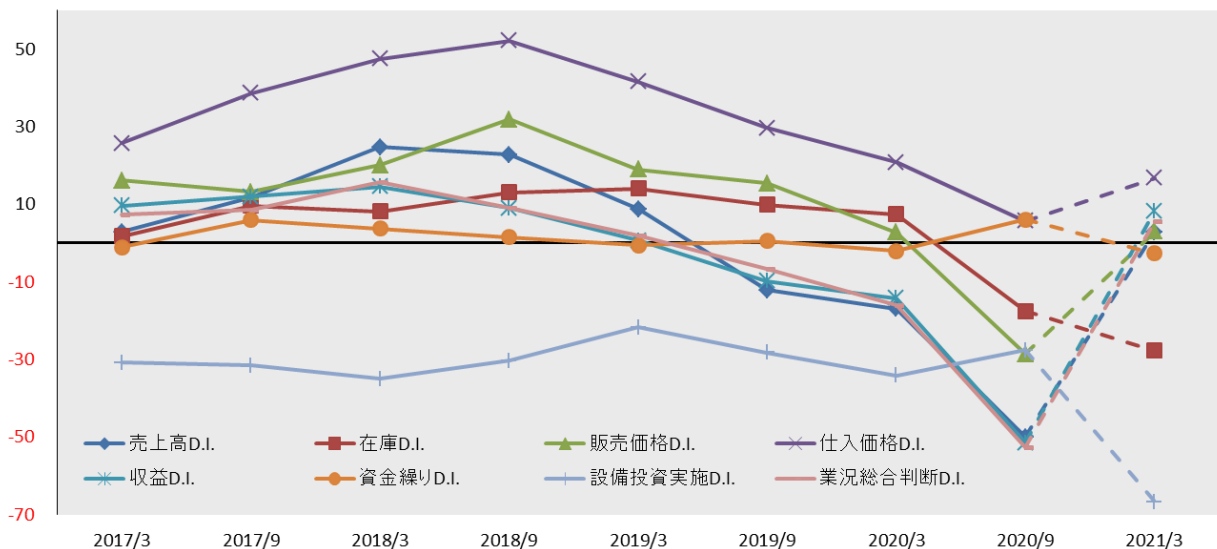
【調査結果の業種別概況】

1. 製造業について



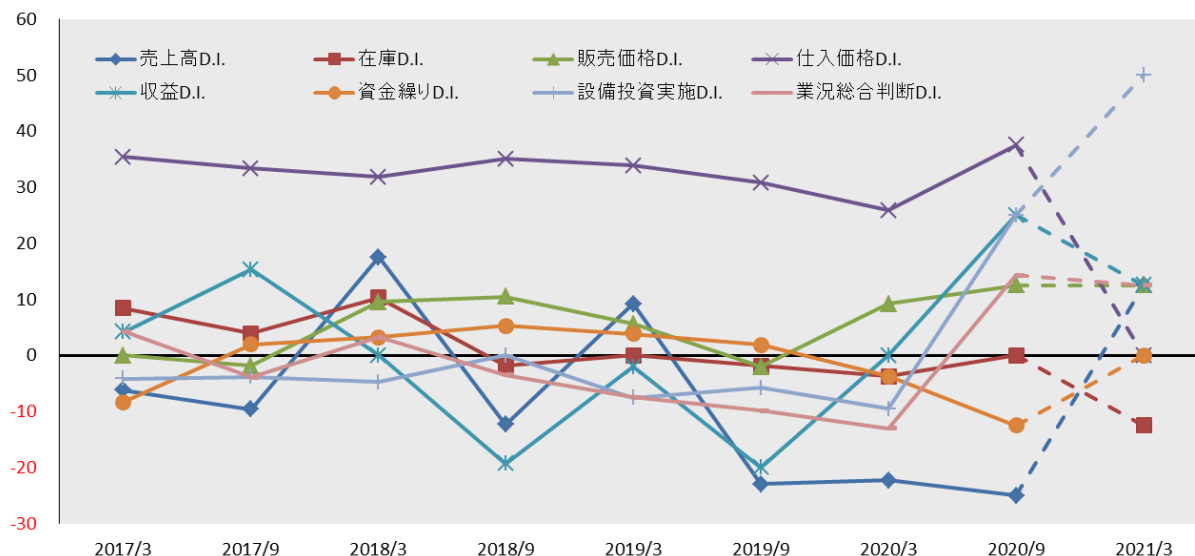
- ✓業況総合判断 D.I.は▲28.8(2019年度下期実績)→▲67.7(2020年度上期実績)→3.2(2020年度下期先行き)とプラスに転じる見込み。
- ✓収益 D.I.については▲24.6(2019年度下期実績)→▲64.9(2020年度上期実績)→5.2(2020年度下期先行き)でプラスとなる見込み。
- ✓設備投資実施 D.I.の2020年度上期実績は▲16.7と2013年度上期以来7年ぶりのマイナスに転じるも、2020年度下期先行きは1.1とプラスと投資意欲は回復する見込み。

2. 卸売業について



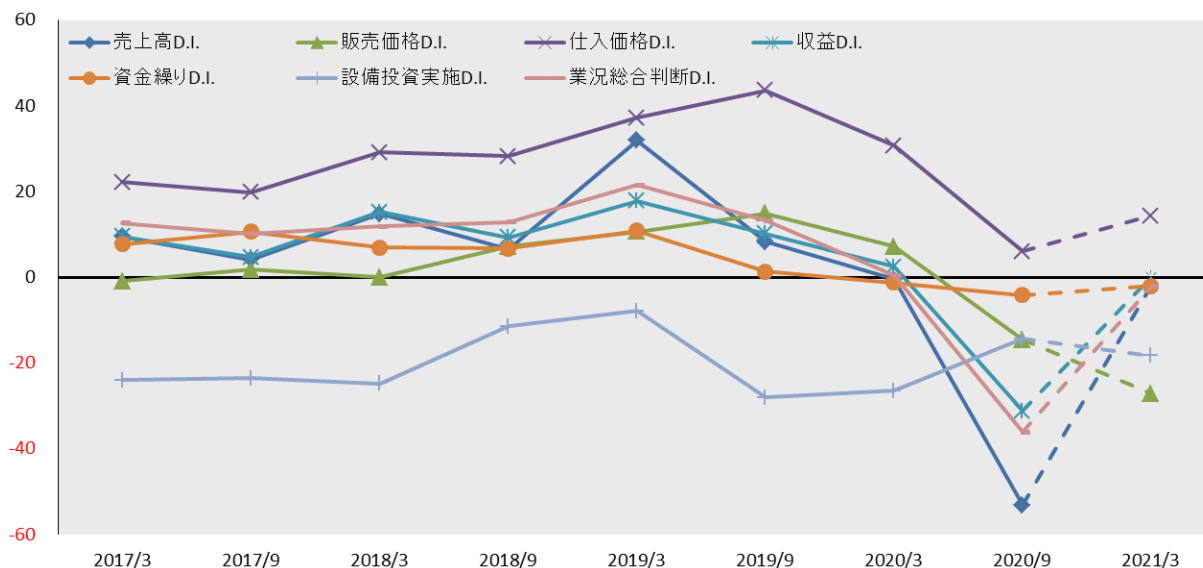
- ✓業況総合判断 D.I.は▲16.1(2019年度下期実績)→▲52.7(2020年度上期実績)→5.5(2020年度下期先行き)とプラスに転じる見込み。
- ✓仕入価格 D.I.は5.7(2020年度上期実績)→16.7(2020年度下期先行き)とプラスで推移している。販売価格 D.I.は▲28.6(2020年度上期実績)→2.9(2020年度下期先行き)と改善する見込み。

### 3. 小売業について



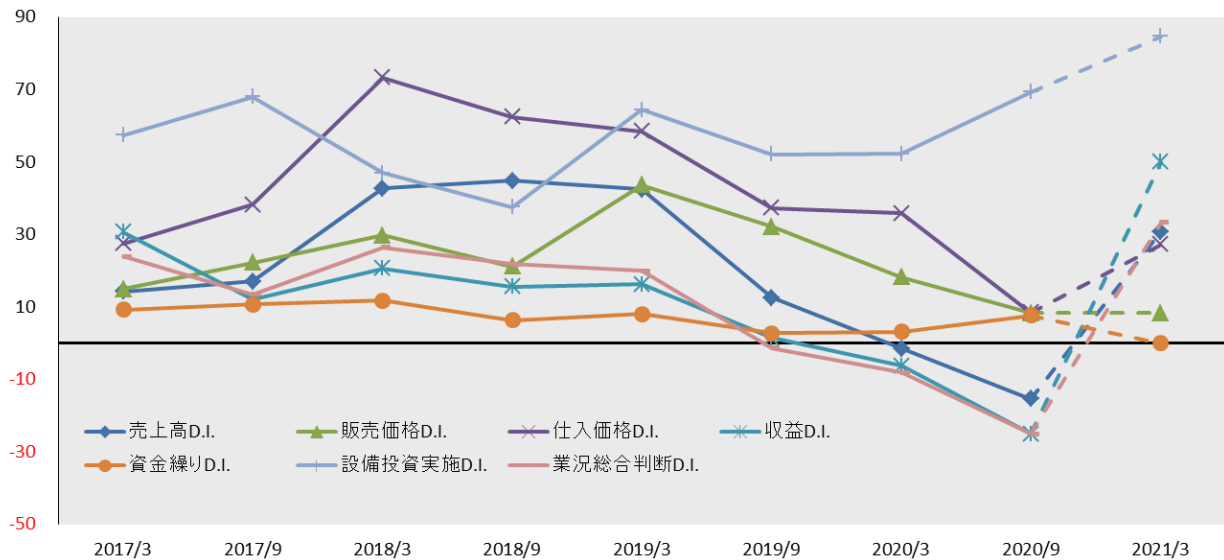
- ✓ 業況総合判断 D.I.の 2020 年度上期実績は 14.3 と 5 期ぶりにプラスに転じた。
- ✓ 売上高 D.I.は▲22.3(2019 年度下期実績)→▲25.0(2020 年度上期実績)→12.5 (2020 年度下期実績) とプラスに転じる見込み。
- ✓ 販売価格 D.I.は 9.2(2019 年度下期実績)→12.5(2020 年度上期実績)→12.5 (2020 年度下期先行き) とプラス推移。一方で仕入価格 D.I.が 25.9(2019 年度下期実績)→37.5(2020 年度上期実績)→0.0 (2020 年度下期先行き) と推移しており、収益構造は改善する見込み。

### 4. 建設・不動産業について



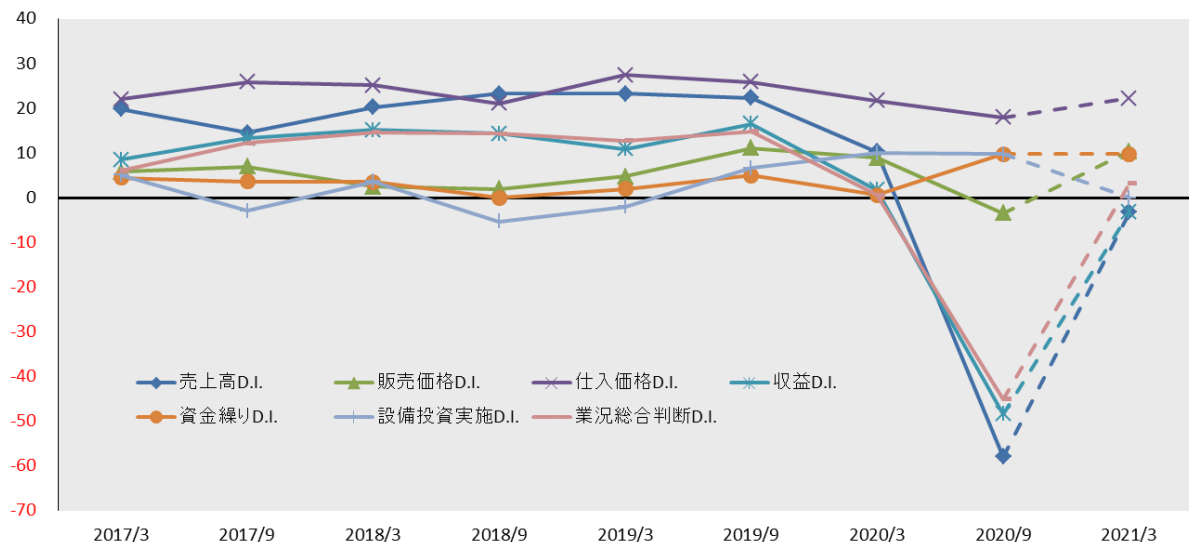
- ✓ 業況総合判断 D.I.は 0.4 (2019 年度下期実績)→▲36.1(2020 年度上期実績)→▲2.1(2020 年度下期先行き)と 2011 年度上期実績以来 18 期ぶりのマイナスに転じた。
- ✓ 業種別で見ると、不動産業が 6.5 (2019 年度下期実績)→▲60.0(2020 年度上期実績)→▲33.4 (2020 年度下期先行き)、建設業が ▲0.5 (2019 年度下期実績)→▲33.3(2020 年度上期実績)→2.4(2020 年度下期先行き)となっている。
- ✓ 仕入価格 D.I.が 30.7 (2019 年度下期実績)→6.1(2020 年度上期実績)→14.3 (2020 年度下期先行き) とプラスで推移しており、材料価格や不動産取得費用の上昇は今後も続く見込み。

## 5. 運輸・倉庫業について



- ✓ 業況総合判断 D.I.は▲8.1(2019年度下期実績)→▲25.0(2020年度上期実績)→33.4(2020年度下期先行き)とプラスに転じる見込み
- ✓ 仕入価格 D.I.の2020年度上期実績は8.4で燃料費や人件費は高くなっている。一方で、販売価格 D.I.は18.2(2019年度下期実績)→8.3(2020年度上期実績)→8.3(2020年度下期先行き)と推移しており、収益性に大きな影響はない。
- ✓ 設備投資実施 D.I.は52.3(2019年度下期実績)→69.3(2020年度上期実績)→84.7(2020年度下期先行き)と高位で推移している。

## 6. サービス業について



- ✓ 業況総合判断 D.I.の2020年度上期実績は▲45.1(2020年度上期実績)と2011年度下期実績以来17期振りのマイナスに転じた。
- ✓ 2020年度下期先行きについては3.2と改善する見込み。

【参考：業種別 D.I. 2020 年度下期先行き】

業種	売上高	在庫	販売価格	仕入価格	収益	資金繰り	設備投資	業況総合
製造業	2.1	▲ 9.4	▲ 20.7	17.9	5.2	▲ 3.3	1.1	3.2
卸売業	2.8	▲ 27.8	2.9	16.7	8.3	▲ 2.7	▲ 66.7	5.5
小売業	12.5	▲ 12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	50.0	12.5
建設・不動産業	▲ 2.0	—	▲ 27.1	14.3	0.0	▲ 2.0	▲ 18.3	▲ 2.1
運輸・倉庫業	30.8	—	8.3	27.3	50.0	0.0	84.7	33.4
サービス業	▲ 3.3	—	10.4	22.2	▲ 3.3	9.7	0.0	3.2

【参考：回答企業のコメント】

業種	コメント
製造業	売上減少が続く中でも、環境改善や衛生管理などに経費が嵩んでおり、対応に苦慮している。
	自動車部品は急速に回復しつつあるが、それ以外の電気、アミューズメント、機械関連はまだ低調。
	受注量が減少しているにもかかわらず、今後の加工賃のコストダウン要請があり、収益低下が予想される。
小売業	資金繰りは厳しいが、資金を投入して新規事業の展開を行わねば活路が見いだせない状況。
建設・不動産業	ミドルコストの住宅販売が不調。今後も高級路線とローコストへの二極化が予想される。
	建設業は、最後に新型コロナウイルス感染症の影響が出てくると予想している。
	感染拡大状況によっては、契約後に着工できない案件が増える可能性がある。
運輸・倉庫業	ネット販売や郵便の配送で需要が増えているが、個人事業主との直接契約が多くなっており運賃が引下げられている。
サービス業	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部部署で休業を実施するなどの影響はあるが、低空飛行ながらも安定している。
	秋以降の展示会や物産展などのイベントも中止となっているが、展示会はオンライン化して開催する動きあり。

【調査の概要】

調査対象	名古屋市を中心とする愛知・岐阜・静岡の当行取引先である中堅・中小企業1,896社
回答数	233社（回答率12.2%）
調査時期	2020年9月中旬
調査方法	調査対象企業に電子メールを送付し、専用サイトへの入力により回答
その他	第1回調査：1949年4～6月調査 1998年3月調査迄は3か月毎、1998年9月調査以降は6か月毎に実施

《回答企業属性》

業種別		地域別		資本金別		従業員規模別	
製造業	96	愛知県	227	1,000万円以下	105	20人以下	85
卸売業	36	名古屋市	134	3,000万円以下	71	50人以下	76
小売業	8	尾張地区	61	5,000万円以下	24	100人以下	45
建設・不動産業	49	三河地区	32	5,000万円超	33	300人以下	24
運輸・倉庫業	13	岐阜県	3			300人超	3
サービス業	31	静岡県	2				
		その他	1				

《業種明細》

業種	回答数	業種	回答数	業種	回答数
製造業	96	卸売業	36	サービス業	31
食料品	1	食料品	7	飲食・旅館・娯楽	2
繊維品	7	繊維品	2	医療・介護・福祉	1
製材・合板		鉱物・金属材料	4	情報・広告関連	6
家具・木製品	1	機械器具	5	その他のサービス業	22
紙・加工品	3	木材・建材	3	全産業	233
出版・印刷	4	化成・医薬品	1		
化学・ゴム・皮革	3	その他卸売	14		
プラスチック・同製品	12	小売業	8		
陶磁器・瓦	1	自動車	2		
コンクリート・土石		食料品	3		
鉄鋼・非鉄・鋳物	11	繊維品			
プレス・メッキ・ネジ	4	燃料	1		
金属製品	18	その他小売	2		
工作機器・金型	3	建設・不動産業	49		
電気機器	9	建設	43		
輸送用機器	7	不動産業	6		
その他機器	6	運輸・倉庫業	13		
その他製造業	6				

以上